

第3回 長久手市の環境の重点プロジェクトを考えよう！

第4次長久手環境基本計画の策定に向け、行政職員の立場から、長久手の環境における重点プロジェクトを考えていくため、2年目の若手職員による第3回ワークショップを令和2年2月10日（月）午後開催しました。

12名の若手職員が第2回で検討したアイデアをもとに作成した事前課題を持ち寄って、チームづくりを行い、チームごとで今後重点的に取り組んでいくべきプロジェクトを検討しました。

第3回職員研修 長久手市の環境の重点プロジェクトを考えよう！を開催

■日 時：令和2年2月10日（月）
13：30～15：30

■会 場：長久手市役所北庁舎2階
第5会議室

■参加者：12名



プログラム

- 13:30 ① 開 会
・開会あいさつ
・本日のプログラムの説明
- 13:35 ② 前回の振り返り
・第2回職員研修の振り返り
- 13:40 ③ 事前に考えた重点プロジェクトの発表！
・一人1分間で、事前に考えたプロジェクトを発表
- 13:55 ④ チームづくり
・各メンバーのプロジェクトを聞いて、重点プロジェクトを一緒に考えるチームを結成
- 14:05 ⑤ 重点プロジェクトを考えよう！
・重点的に取り組むアイデアを具体的に検討
- 14:45 ⑥ 発表
- 14:55 ⑦ 投票&コメント
・気になった取組みへのコメント
- 15:05 ⑧ 作戦タイム
・コメントのあった内容を確認し、重点プロジェクトの再検討
- 15:15 ⑨ 改善案の発表
- 15:25 ⑩ まとめ

① 開 会

最初に事務局の環境課より、本日のプログラムについて説明を行いました。

② 前回の振り返り

ここからは一般社団法人地域問題研究所のスタッフに進行をバトンタッチし、まずは第2回で検討した内容の振り返りを行いました。「地球温暖化対策チーム」、「廃棄物対策チーム」、「生物多様性対策チーム」でそれぞれ出された取組みアイデアを簡単に紹介しました。

③ 事前に考えた重点プロジェクトの発表！

参加者 12 名が車座になって、一人 1 分程度で事前課題として作成した重点プロジェクトに向けた取り組みアイデアを発表しました。

④ チームづくり

全員の発表を終えた後で、「自分と近い内容」、「一緒になると化学反応が起こりそうな内容」、「自分の書いたものよりも面白そうな内容」などを考えながら、一緒に重点プロジェクトを考えていくチームづくりを行いました。

偶然にもすぐに、「環境に配慮した働き方を考えるチーム」、「市民のエコ活動を促進する仕組みを考えるチーム」、「おとな塾を考えるチーム」の 3 つのチームができあがりました。



⑤ 重点プロジェクトを考えよう！

3 つのチームに分かれ、それぞれの事前課題を持ちよりながら、重点的に取り組んでいく内容について検討していただきました。プロジェクトの「ねらい・効果」、「誰を対象にするか」、「誰が実施していくのか」など、具体的な取り組みになるよう、内容を深めていきました。

その後、メンバーで協力しながら模造紙 1 枚に色紙、付箋なども使いながら重点プロジェクトをまとめました。



⑥ 発表

各チームでまとめた重点プロジェクトについて発表しました。

「**環境に配慮した働き方を考えるチーム**」からは、『新！働き方改革！！プロジェクト』として、「週休 3 日制の実施」、「自転車の通勤の促進」、「ペーパーレスの徹底」、「オフィスにおける自由席（フリーアドレス）の導入」が提案されました。

「**市民のエコ活動を促進する仕組みを考えるチーム**」からは、『エコ活サポート事業プロジェクト』として、「エコ活動をしたらポイントがもらえ、企業で利用できる仕組み」、「ソーラーパネル設置などへの市からの補助金創設」が提案されました。

「**おとな塾を考えるチーム**」からは、『おとな塾プロジェクト』として、「外来種をとって食べよう」と「米や野菜を育てて食べよう」が提案されました。



⑦ 投票&コメント

発表しないチームのメンバーは、発表したチームの重点プロジェクトについて、良いと思う点（青色の付箋）、改善・検討すべき点（赤色の付箋）などを記入し、チームの模造紙に貼っていました。

⑧ 作戦タイム

他のチームからコメントのあった内容をそれぞれのチームで確認し、特に改善・検討すべき点についてチームで話し合い、改善点等への答弁を考えながら、重点プロジェクトの再検討をしました。



⑨ 改善案の発表

他のチームからコメントのあった内容に対する改善点など、重点プロジェクトの改善案を各チームから発表しました。

「環境に配慮した働き方を考えるチーム」からは、自由席は人間関係などの好き、嫌いのある場合なども考慮したり、個室も用意したり、セキュリティも強化するなど、臨機応変に対応していけるようなものを考えていきたいなどの改善案が説明されました。



「市民のエコ活動を促進する仕組みを考えるチーム」からは、エコポイントの協力企業になるメリットを考えていくことや、ソーラーパネルの面積に応じた補助などを考えていくことなどの改善案が説明されました。

「おとな塾を考えるチーム」からは、対象者を親子参加も考えていくこと、食べられない外来種については埋めて土に戻して循環させていくなどの改善案が説明されました。



⑩ まとめ

各チームからの発表と、これまでの3回のワークショップを踏まえ、環境課からそれぞれ講評・まとめをしました。「環境に配慮する行動はそれぞれの仕事にも関わることであり、色々な業務が環境にもつながること」、「エキサイティングな意見、やれる訳がないような意見などでも深掘りをしていけば、今後ポディブローのように効いてくることがあること」、「今回、様々な手法のワークショップを体感したが、今後も色々な研修や計画づくりの場面で実施していくことになること」などのコメントがありました。



これまでのワークショップで出されたアイデアなどを第4次長久手環境基本計画に生かしていくように検討することを説明し、3回にわたる職員研修が終了しました。

【事務局】 長久手市環境課 0561-56-0612 担当：嵯峨、大谷、佐藤、笹山

第3回 長久手市職員研修 受講者アンケートの結果

参加者 12名
から回答

Q1 環境への理解は深まりましたか？

今回の研修を通じて環境への理解は、「とても深まった」が3名、「ある程度深まった」が9名となっています。



Q2 今日のワークショップを通じ、気になった言葉を3つ書いてください。

- 自由席・フリーアドレス（5名）／●おとな塾（4名）／●週休3日制（3名）／●エコポイント（3名）／●エコ・エコ活動・エコ通勤（3名）／●働き方改革・ワークライフバランス（3名）／●自転車通勤・自転車補助・レンタサイクル（3名）●週休3日制（3名）／●外来種、外来種を食べる（2名）
- その他1名ずつ/「再生可能エネルギー」、「ソーラーパネル（農業）」、「リサイクル」、「命の循環」、「横断的な計画」、「オリジナリティ」、「協賛企業」、「託児」、「食べる」、「真菜スムージー」

Q3 本日のワークショップについてのご意見・ご感想をお聞かせください。

- 自分達の意見を発表するだけでなく、「良い点」「悪い点」を各班からいただけることで、さらに色々な視点が入り、事業にも深みを持つことができることが良かったと思った。
- 自分の中である程度内容が固まっていたプランでも、他の人と合わせると方向性を決めかねたり、逆に難しいと思っていたところが何とかなったり、難しいけど面白かった。自分が講座の企画を作る時もこんなふうに色々な意見をもらいたかった。
- 環境について楽しく学ぶことができた。
- 経験が浅いからこそ、枠にはまらない意見が多くて面白かった。
- 個人で持ち寄った意見・アイデアを一つの新しいものへ作り上げる楽しさや広がりを感じた。
- 自分の発表と近い人と組むことで、より考えを深めることができた。
- 一度話し合ったものにフィードバックがあることでよりアイデアが深まった。事前課題があることで、事前に様々な環境の問題について知識を深めることができた。
- 発表後に多くの意見がすぐにフィードバックされ、考えをさらに深めることができた。
- 事前課題を作る時には思いつかなかった様々な発想を見ることができて非常に面白かった。
- 事前課題をみた時は難しそうに思ったが、やってみると沢山の意見が出て楽しかった。補佐のコメントがこの2年間でも感じていたことなので、今後も自分のアイデアを大切にしようと思改めて思った。
- ちょっと時間が足りなかった。週休3日になるといいなと思った。他の班の意見がとても新鮮で面白かった。良い意見、悪い意見の両方がもらえたのが良かった。
- 自分では思いつかない意見を聞いて良かった。プレゼンがなかなかまとまらず、時間が足りなかったのが残念。

Q4 第1回～第3回のワークショップを通じ、どのようなことを感じましたか。自分が現在担当している業務や、他部署の業務を今後実施するにあたり、気を付けたいこと、やってみようと思うことを記入してください。

- 意見を交換することで、自分が考えもしなかったことや、自分の意見をより深めることができることがわかったので、意見交換を自分から積極的に行っていきたいと思った。
- 市民だけでなく、実際に業務をしている人（行政）の意見を取り入れることも「実現していく」という意味だとすごく重要だなと思った。
- イベントの託児希望は結構大きいのだなと。日進市は講座にも託児があるそうで、うちでもできるかな。食のイベントや講座、難しいと思うけどやってみたい。
- どこの課に行っても環境とつながっていることを実感した。私のいる市民課ではごみの出し方の案内をしているが、たまに出し方を知らないけど、面倒だから行かない人など（推測）がいる。この人達に積極的に行ってもらえるような案内ができればと思った。
- 「環境」という範囲は広い分野に及んでいることを学べた。自分の行い一つひとつがエコにつながる（仕事もそれ以外も）を気付けた。
- 企業ができる取組みもあると思うため、市から企業への働きかけも積極的に協力できたらと感じた。
- 紙の消費など、市民の方へ必要な時に要求された分だけ渡してしまうことなどがある。捨てられないような工夫などをしていきたい。
- 保険・医療関係は特に紙が多い。どんどん減らしていきたいと思う。
- 環境について最初はエコやごみについてくらいしか知識が無かったが、ワークショップを通して幅広い分野に通じることがあることを学んだ
- 環境のことについて、こんなにも考えたり、調べたりしたのは、小中学生の頃以来だった。考えること⇒意識すること⇒行動することにつながると思うため（自分も実感した）、市民にもちょっとしたところから、考えるきっかけを見つけられればいいと思った。歩くこと＝CO2を減らす＝健康アップにもつながるため、横断的な取組みも少し意識して事業を考えたり、普段の業務に取り組んだりしたい。
- 突拍子もないようなアイデアでも最初から否定せず取り敢えず発表していききたい。
- 考えたこともない、思いもよらない意見・アイデアに沢山触れることができたのが良かった。一言で「環境」と言っても様々な分野が含まれているのだと思った。

■ 新！働き方改革！！プロジェクト

ねらい・効果

- 健康増進
- CO2 削減
- ワークライフバランスの充実

取組内容

取組 1 週休3日制

- ①シフト制で自由に休める
- ②家族との時間を大切にする（あなたなら何曜日に休みますか？）

【対象】

・市民（在勤）

【実施主体】

・行政、協賛企業

取組 2 自転車の普及

- ①リニモ各駅レンタサイクル（レンタサイクルはアプリで予約できる！）
- ②徒歩・自転車通勤の人に手当
- ③実施する市内企業は法人税の見直しを検討！？

【対象】

・市内在勤の人

【実施主体】

・行政

取組 3 ペーパーレスの徹底

- ①書類の電子化（もう文書整理とはおさらば！）
- ②ICT（アプリ、SNS等）の普及

【対象】

・行政、市民

【実施主体】

・行政、協賛企業

取組 4 自由席の導入

- ①課の中で実施！
- ②市役所だってオシャレに働きたい

【対象】

・行政

【実施主体】

・行政

■新！働き方改革！！プロジェクトへの賛同・改善意見

貼られた箇所	賛同意見	改善意見
■ねらい・効果	環境だけでなく、健康やワークライフバランスまで考えられているのが良い。	週休3日制はどこも導入していない。給与も減るが、どう補填するか。
①週休3日制	モチベーションは上がる。	給料は減らないよね？
	余った日は環境ボランティアしてほしい。	シフトで休むなら施設のエアコン代や電気代はあまり減らないのでは？
	フレックス制？ 仕事量が減る or 人員増ならいいと思う。	休むのは良いけど、仕事が溜まりそう。
【実施主体】		業務削減がされないと、企業の参加は難しい気がする... 企業に…。その気にさせる技は？
②自転車の普及	レンタサイクルは簡単にできそうで良いと思います。財源を考えたほうがいいのかも…	運動したくない。
	定期代+αでもらえるのは嬉しいが、給与は減らない？	自転車が盗まれそう。どう管理するのか。
	自転車シェアのアイデアは良いかも。	アプリ予約した自転車は、どうやって受け取る？カギの管理は？保険代は？
	インセンティブの方法で“お金”は分かりやすい。	雨の日の自転車は辛い。
	レインコートの貸し出しもあるといいな！	もっと楽しそうな自転車普及にしたい。
	自転車の保険料高いので、そこについて補助が出るとなお使いやすい。	
	乗り捨て、ネット予約は便利で使いやすいと思いました。	
	手当が出るなら、やる人も多くなりそう。 3つの効果を同時に進めるのが SDGs 的で良いと思います。自転車を降りる駅(乗り捨て)に偏りができるのが予測されてるが、どうする？	
③ペーパーレスの徹底	確かに紙が多い！	災害時の対応は？
	ペーパーレスは市民も巻き込んでやりたいですね。	電子化に対応できない人への対応は？
		電子データでのみ残すのは保険上危険。 ネット環境がない市民への周知はどうしますか？ 電気が使えない非常時対策が必要。
④自由席の導入	自由席の発想はその他いろいろなメリットがあるかも…ポテンシャル大	フリーアドレスは物をなくしそう。
	公務員=かたい仕事、というイメージなので!!自由席は良いと思う。	居場所がなくなる。
	文化の家ですすでに導入されて、一定の効果が出ている。	自由なのはどこまで？、課内限定？
	文化の家でやっているので参考に。	
	オフィスの面接減らせば効果あり。 先日 IKEA の Office 見た。きれいでした。	

■ エコ活サポート事業プロジェクト

ねらい・効果

- エコ活動に参加しやすい環境づくり
- 市民のエコ意識を高める

取組内容

取組 1 エコ活動をしたらポイントがもらえる

- ①服や家具などをリサイクルへ出した人へエコポイントを付与
- ②貯まったポイントは市内協力企業で使用可能

【対象】 ・全市民	【実施主体】 ・市ー市内企業へ委託 (IKEA、イオン etc.)
---------------------	--

取組 2 市からの補助

- ①ソーラーパネル設置への補助金
- ②エネルギー消費量が見えるパネル兼広告

【対象】 ①農業従事者または農業に興味のある人 ②事業所施設管理者	【実施主体】 ・市 (財源：企業等の広告料、環境省の補助金)
--	---

■エコ活サポート事業プロジェクトへの賛同・改善意見

貼られた箇所	賛同意見	改善意見
■ねらい・効果	ポイントをもっと市民に魅力あるものにしたい。	なぜエコ活動をするのかが、この事業で広く市民に伝わるか？
	自分の行いがエコにつながっていくということに気づける。	市民に参加してもらう工夫はありますか 知れわたるかなあ⇒企業に広報
	市内でポイントが使えるのは、地域内消費や活動意欲につながる。	リサイクル以外のエコ活動は？
	幅広いエコ活動が対象となるため、取り組みやすい。	子どもたちも関わるといいネ!! 何か方策は？
①エコ活動をしたらポイントがもらえる	エコ活動のモチベーションがあがる ↗	エコポイントは何かをもって1ポイントとするか。
	使わない≠ゴミにしない、が身近になりそう	ポイントはどのように管理する？ 自己申告？要チェック？ ⇒アプリ・現確と自己申告
	エコポイントは無償提供でもらえる？ 有償提供でもらえる？	企業にはすでに独自のポイントシステムがあるので、市はそのシステムを利用した人に、さらに特典を付与するのも良いのでは？（委託料は必ずしも必要がない）
	ポイントの使い方は？1P=1円 粗品と交換？	リサイクルに出したいけど重いと運べない。
	エコハウスには年間10万人以上が資源を持ってきています。	リサイクル品の管理が大変そう。
		リサイクル可能の基準をしっかりとしないと、逆にゴミをもらうことに…。
【対象】		市民だけに限らなくてもいいのでは？
【実施主体】	イオンとかでポイントが使えたら、取り組む人が多そう。	協力企業の協カメリットは何か？
		協賛企業への協力の求め方はどうするのか？⇒宣伝・企業イメージUP。お客増える
		豊田市で似たようなことをやってます。 オリジナリティは？
②市からの補助	使用量の見える化パネルは目標が明確になっていいと思います。 さらにエネルギー使用量を減らす機能をつけて管理を意識すると良いと思います。	農地にソーラーパネルは、緑が減る？、 景観が悪くなる？
	パネル設置で消費エネルギーが見える化にするのは、意識向上につながりそう。	補助率どうするか。100%補助じゃないとなかなか設置してくれない。⇒1haあたり～円とか
	すでにある市の補助 ・太陽光パネル（住宅） ・生ゴミ処理機 ・エネルギー管理システム（HEMS）（住宅用）	補助でのパネル設置により、業者不足になるのでは？
	ソーラーパネル補助は、国からの補助にプラスでもらえる？整合性がとれればいいが。	市役所の財源はあるか？

■ おとな塾プロジェクト

ねらい・効果

- 意識向上
- 交流
- 環境保全

取組内容

取組1 とって食べよう

- ①外来種や野菜をとる
- ②とったものについて学ぶ
- ③調理する
- ④食べる(とる班と食べる班は、たまに交換。その際に有名シェフを呼んで高級レストラン(風)にする)

【対象】

・20～50 歳代くらいの大人

【実施主体】

取組2 育てて食べよう

- ①米や野菜を育てる(ブランド米をいつかは作りたいなあ)
- ②農業について学ぶ
- ③調理する
- ③食べる(とる班と食べる班は、たまに交換。その際に有名シェフを呼んで高級レストラン(風)にする) ※食べるときは長久手のお酒とともに

【対象】

・20～50 歳代くらいの大人

【実施主体】

- 時間 : 土曜の昼すぎ～夜
- 場所 : こども塾周辺
- 行政の支援 : イベントのPR、場所の提供、講師の手配

★ポイント

- ・大人が対象なので託児あり
- ・とにかく参加のハードルを下げる
- ・長久手の自然を楽しく美味しく学べる

★市民のメリット

- ・タダで飲み食いできる

■おとな塾プロジェクトへの賛同・改善意見

貼られた箇所	賛同意見	改善意見
■プロジェクト名	ネーミングが「こども塾」と対照的でよい。 内容もタイトルもキャッチーなので参加しやすいと思いました。	
■ねらい	観光交流協会さんが、昨年、雑草から作る薬草鍋の炊き出しイベント開催されていました。食べられる草の分かる講師の候補はいます！実現したら面白そうです。 生物多様性の恵みを体感できるものです。 人と環境の関係性を体感しながら意識していく取組みとして良いと思います。 “食”に注目した点が良いです。食と環境問題とつなげると分かりやすい。	
■ターゲット	子どもも参加できれば家族サービスにもなりそう（おとな塾からこども塾）。 参加者数が少なそうなので、市全域に知識や活動が広がるといいですね。	子どもはダメなの？なぜ大人対象なの？ 参加者が固定されそう。 大人のみならず子連れも参加できれば、もっとファミリーも楽しめる。
■ポイント・メリット、行政の支援	メリットを分かりやすく説明しているのがよい。 楽しく遊びながらなので、多くの参加者が期待できそう。 未就学児は託児があるととても助かると思いました。小学生以上は一緒に参加できると楽しいイベントになりそうです 長久手のブランドができるのはとても良い。 やるのが分かりやすい。	子育て世帯は、親子の時間が無くなっちゃう。 おとな塾とこども塾の接点あるといい。何かいい策は？ ①とって食べようと②育てて食べようを両方やらせては？ ハードルの下げ方は？
①とって食べよう	とるのは面白そう。 動物は対象ですか？ 外来種を駆除ではなく食べてしまうというのが斬新でステキ。 取組みがわかりやすい。	食べることでできない外来種はどーするの？ 外来種の命の大切さはどのように伝えますか？ 基本的に臭さやエグみがあって食べられない。 危険な外来種を間違えて食べてしまうリスク…。 外来種に敵対心を持ち、どのようなことにつなげることが目的？
②育てて食べよう	イベント ⇒ 料理を普及 ⇒ 長久手の新しい食文化づくり 酒造はハードルが高いだけに、とても楽しそう。	農業未経験者にはハードルが高い。特に大人は。参加しやすくなるしくみを。 新しく作る、学ぶ視点に、今ある自然、生物を守るという視点も必要。 毎回酒が出ると子ども連れが来にくいかも… こども塾では酒飲んだら足がない。